

第 72 期（2021 年度）事業の概況

1. 会 員

会員数は、2021 年 12 月 31 日現在、名誉会員 7、個人正会員 1,423、団体正会員 351（391 口）、学生会員 178 の計 1,959 であった。理事会及び会員委員会を中心に会員数の増強に努力し、個人正会員 71、団体正会員 3（3 口）、学生会員 106 の新入会を得たものの、個人正会員 136、団体正会員 13（13 口）、学生会員 117 の退会があり、前年同期に比べ計 86 が減少した。

2. 会 計

当初予算の収益は、会員数及び新型コロナウイルス感染動向などを考慮し、前年度決算より受取会費 157 万 9,500 円減、事業収益 755 万 3,525 円増とした。

これに対し受取会費は、前年度決算より 163 万 2,000 円減であり、団体正会員、個人正会員、学生会員のいずれも前年度を下回った。また事業収益は、予算額を下回ったものの、前年度決算より 284 万 1,335 円増であった。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、前年に引き続き学術講演会だけでなく、展示会事業も減収となった。また、会誌発行事業は、広告出稿数減少の影響を受け減収であった。そのような状況の下、学術セミナー事業は、オンラインツールの活用により、予算を上回る収益を上げた。経常収益計は、前年度を上回り、9,726 万 2,572 円であった。

一方、費用は、前年度決算に対して 397 万 5,547 円減となった。これは、前年に引き続きオンラインツールを活用することで、会議費、行事費、旅費交通費などの費用が抑制されたほか、事務局人員減が影響している。経常費用計は 7,587 万 6,941 円であった。

以上のとおり、当期経常増減額は前年度決算を上回り 2,138 万 5,631 円増となり、正味財産の当年度末残高は 1 億 5,040 万 9,910 円となった。

3. 講演大会等

第 143 回講演大会（3 月 4 日～5 日）は、新型コロナウイルス感染拡大状況を踏まえ、山梨大学の協力のもと、Zoom Meetings によるオンライン方式で開催した（発表 119 件、参加登録者 361 名）。

第 144 回講演大会（9 月 16 日～17 日）は、新型コロナウイルス感染拡大状況の収束が見込めず、講演募集後にオンライン開催に変更した。兵庫県立大学の協力のもと、Zoom Meetings によるオンライン方式で実施した（発表件数 130 件、参加登録者 388 名）。

また、第 144 回講演大会において、「第 23 回優秀講演賞」3 名、「第 9 回学生優秀講演賞」4 名を選考し、第 145 回講演大会において授与する予定である。

第 78 回表面技術アカデミック研究会討論会は、「半導体プロセスにおける原子層スケールの先端表面処理技術」と題し、オンライン開催した（12 月 9 日）。

4. 会 誌

12 テーマの小特集及び特集を企画し、年間 12 号の会誌「表面技術」を発刊した。ページ数は総計 722 ページ、掲載論文は、研究論文 16 件・技術論文 2 件・ノート 6 件・速報論文 6 件であった。

J-Stage [科学技術情報発信・流通総合システム] には、「表面技術」の前身誌である「金属表面技術」及び「現場パンフレット（後改称：実務表面技術）」の創刊号から第 72 巻（2021 年）6 号までを掲載し、研究論文・技術論文・ノート・速報論文については、第 72 巻 12 号掲載論文までを掲載した。

5. セミナー

新型コロナウイルス感染拡大のため、Zoom Webinar を用いたオンライン方式で開催した。夏季セミナー“表面処理入門講座（Ⅰ）”（6月23日）、夏季セミナー“めっき液の分析と管理”（7月16日）、夏季セミナー“めっき現場における要素技術”（8月26日）、秋季セミナー“表面処理入門講座（Ⅱ）”（10月27日）、秋季セミナー“難処理材へのめっき技術”（11月19日）、冬季セミナー“変革する自動車産業と表面処理”（12月3日）を開催した。参加者の合計は310名であった。

6. SURTECH

“SURTECH 2021－表面技術要素展”は、東京2020オリンピック延期によって、東京ビッグサイト東ホールが使用できなくなったため、“nano tech 2021”などの展示会とともに東京ビッグサイト西ホール1を会場として開催（2020年12月9日～11日）した。新型コロナウイルス感染拡大のため出展社（機関）は、21社/機関、26小間であった。なお、会期の前後にオンライン展示期間（2020年10月26日～2021年1月15日）を設けた。全体の来場者はオンライン開催を含め22,704名であった（うち東京ビッグサイト開催は10,615名）。

7. 国際交流

新型コロナウイルス感染拡大の状況により延期した INTERFINISH 2020 -20th Interfinish World Congress（第20回表面技術国際会議）を2021年9月6日～8日にオンライン開催した（共催：名古屋大学）。発表は351件、有料参加登録者は387名であった。

8. JIS 規格検討専門委員会

日本溶融アルミニウムめっき協会からの依頼により、本会が日本規格協会との窓口となり、溶融アルミニウムめっき関連規格（JIS H 8642：1995、JIS H 8672：1995）の改正作業を進めている。

9. ISO 規格検討専門委員会

国際標準化機構（ISO）のTC 107部門（金属及び無機質皮膜）の国内審議団体として、特別委員会の中にISO規格検討専門委員会（兼務：ISO/TC 107国内対応委員会）を置き、国際規格の制定などに協力した。

また、経済産業省の再委託事業として、(株)野村総合研究所から「令和3年度省エネルギー等に関する国際標準の獲得・普及促進事業委託（電波透過及び電波遮断機能を有する金属薄膜応用部品の機能表示方法に関する国際標準化）」を(株)島津製作所と共同で受託した。本会は会議関係の業務を担当している。

10. 創立70周年記念事業

創立70周年記念事業に要する経費の募金活動を実施し、2019年5月1日から2021年12月31日までに970万8,500円の寄付を受けた。事業計画のとおり、国際会議の開催、創立70周年記念特集号刊行、情報ネットワーク等強化事業、基盤強化資金充当事業を実施した。

基盤強化資金充当事業において、会計項目化した特定資産「基盤強化資金」（666万6,813円）は、国際交流の推進、次世代研究人材育成、協会支部活動の活性化、会員管理システムの更新を目的として協会の将来構想に基づき計画的に執行する予定である。

11. 表 彰

協会賞 1 名、功績賞 2 名、論文賞 1 件、技術賞 2 件、進歩賞 1 名、技術功労賞 5 名を表彰した。

12. 表面処理団体協議会（表団協）

本会及び全国鍍金工業組合連合会、日本表面処理機材工業会の 3 団体で組織する表面処理団体協議会は、新型コロナウイルス感染状況を踏まえ、前期に引き続き本期も活動を自粛した。

13. 支 部

北海道・東北・関東・中部・関西・九州の各支部は、それぞれの地域特性及び新型コロナウイルス感染状況に対応した諸活動を行った。また、関西支部は第 144 回講演大会の成功に貢献した。

14. 部 会

本期に活動している部会は以下のとおりである。

- ① ウェットプロセス研究部会
- ② 環境および機能性に関する塗料部会
- ③ 金属のアノード酸化皮膜の機能化部会
- ④ 高機能トライボ表面プロセス部会
- ⑤ 材料機能ドライプロセス部会
- ⑥ 将来めっき技術検討部会
- ⑦ 表協エレクトロニクス部会
- ⑧ 表協青年経営技術懇話会
- ⑨ 表面技術環境部会
- ⑩ 表面技術とものづくり研究部会
- ⑪ ヘテロ界面制御部会
- ⑫ めっき部会
- ⑬ 溶射・ライニング部会
- ⑭ ライトメタル表面技術部会